

教育目標(めざす児童生徒像)	今年度の指導の重点
自ら学び、心豊かな新野の子を育成する。 にこにこ (人や自分を大切にする子) いいきいき (めあてをもって学ぶ子 すすんで動く子) のびのび (元気に運動する子) こっこつ (ねばり強い子)	1 指導技術を高め、授業改善を行い、わかる授業・楽しい授業づくりを進める。 2 基礎基本の定着に向けて、くりかえし学習・補充学習・少人数指導等を取り入れ、個に応じた指導を充実させる。 3 一人ひとりの教育的ニーズを把握し、適切な指導と必要な支援を行い、特別支援教育を充実させる。 4 児童の達成感を大切にし、自己肯定感を育てる積極的な生徒指導を推進する。

調査結果について(調査結果において明らかになったこと)	
【学力状況調査の結果】 全国 ○国語A・B、算数A・Bともに県平均と比べると正答率が低い。算数よりも国語の方が正答率がやや高い。 ○国語Aについては、「書くこと」の領域では県平均をわずかに上回っている。漢字の読みはほぼ県平均と同じである。 ○算数Aについては、「数と計算」「数量関係」領域では7割程度はできているが、県平均よりは低い。「量と測定」領域には特に大きな課題がある。10.3+4の小数と整数の加法の理解:本校53.8%(県77.0%) 重さ・長さの任意単位による測定の理解:本校45.8%(県71.7%) ○国語B・算数Bともに、無解答率は低いものの「条件を整えて記述する」「条件に合わせて考え、説明する」という観点に大きな課題がある。飛び離れた数値を除いて平均を求める:本校41.7%(県67.2%)、仮の平均使って平均を求める:本校8.3%(県31.8%) 県 ○4年・5年の算数は、県平均をわずかに上回っている。3年の算数や、3年・5年の国語はほぼ県平均と同じである。4年の国語については、やや下回っている。 ○国語については、全学年とも「読むこと」の領域では県平均より高い。漢字の読み・書きについては、4年は県平均とほぼ同じ、5年は県平均を上回っている。 ○算数については、4年・5年の「数と計算」「量と測定」領域では県平均を上回っている。基本的な計算については、どの学年も8割以上できている。 ○国語では、全学年とも「話の内容を聞き取る」「作文」に課題がある。 ○算数では、3年の位取り取数法・かさや長さの単位・直角三角形の理解、4年の数直線上の分数・文章題の図の表し方・道のりの比較、	○「ものごとを最後までやり遂げて嬉しかったことがある」「難しいことでも、失敗を恐れなくて挑戦する」というがんばる姿のポイントが高い。 ○「友だちと話し合うとき、友だちの話や意見を最後まで聞く」「学校で友だちに会うのは楽しい」「友だちとの約束を守る」という良い友だち関係のポイントも高い。 ○「宿題をする」は100%だった。しかし、「自分で計画を立てて勉強をする」「予習をする」「復習をする」というポイントは、かなり低い。 ○テレビ等の視聴時間、テレビゲームの時間、スマホ等の使用時間が、かなり長い傾向にあり3~4時間以上というポイントも高い。スマホの所有率も県平均よりかなり高い。 ○家庭学習を全くしないという児童はいなくて、宿題を100%していることは素晴らしい。が、時間そのものは短く土日も含めて1時間より少なく宿題以上のことはできていないようだ。 ○読書時間が、全体に少なく、読書時間0分、図書館(館)の利用回数0回というポイントが3割くらいあるのが気になる。一方、1日に2時間以上の読書、週数回の図書館利用という児童もいる。 ○放課後や土日にテレビ・ゲームで過ごすというポイントが高いことや、テレビやゲームのルールを決めていないというポイントがかなり高いことが気になる。 ○「朝食を毎日食べる」「毎日同じくらいの時間に寝る」という基本的な生活習慣に関わる項目のポイントが低いことも気になる。 ○学校のめあての一つとして挨拶に取り組んでおりがんばっているが、「あいさつをする」の項目のポイントが県平均より低く、まだ自

成果	課題
○算数の基礎基本の積み重ねが少しずつできていて、力がついてきているが、学年によっては十分でないところもある。 ○漢字の読み書きなども、繰り返し練習を積み重ねてきていて、読みの力はだいぶついてきているが、書きについてはまだ十分とはいえない。特に、 語彙を広げたり、意味をしっかりと捉えて覚えていくというポイントもおおきく指導したい。 ○どの教科も、無解答率は低く、しっかり取り組もうとする意欲は高い。 ○どの教科も、「大切だと思う」「将来役に立つと思う」「最後まであきらめないで努力して解答した」と回答した割合が高く、学習に対して前向きな児童が多い。	○児童が落ち着いて学習に取り組めるような学習環境作りの徹底ができていない。校内で共通して取り組んでいる「学習の7つのやくそく」の徹底のレベルが揃っていない。 ○主体的に学ぶ学習環境づくりや意識づくりをしていく。(話し合い活動・学び合い・予習復習などの自主学習など) ○基礎基本の徹底のレベルをもっと上げていかなければいけない。(漢字・言語事項・計算・線分図や数直線などの算数の表現力) ○国語や算数の活用問題で、「条件を整えて記述する」「複数の条件を整える」「自分の考えを書く」「条件に合わせて考え、説明する」という点に大きな課題が見られる。この視点をおおきく授業改善が必要である。いろいろな教科での「ふりかえり」などで、このポイントをおおきく。 ○家庭と連携して、望ましい生活習慣や学習習慣の定着について、家庭の協力を求めていく。

何を(改善すべきこと)	いつまでに(成果検証の期限)	どこまで(対象と達成目標の設定)	どのように(方策)	達成状況(12月末現在)	達成度	達成状況(年度末)	達成度	次年度への改善点・重点課題
主体的に学ぶ学習環境作りの徹底「7つのやくそく」の共通理解	運動会終了後1ヶ月(10月中旬)	意識100% 実施 80%	・ふりかえりカード ・全校で検証して、次の方策を考える	・10月全校で「ふりかえりカード」実施。週目標にも、ポイントを絞って設定。教職員も意思統一し、意識を高めたり、改善されたりした部分もある。	B	・「ふりかえりカード」や週目標の取組により、教職員の意識は大分統一できてきたが、実態としては、学年により差がある。	B	・「学習の7つのやくそく」をはじめ、基本的な学習環境づくりに必要なことを共通理解し、月ごとの「振り返りカード」をつ作成し、途中で修正しながら、より徹底していく。
基礎基本の徹底のレベルアップ	2学期中、学期末まで	70%→80%	・校内でそろえているプリントを強化週間に実施(1学期 前々学年 2学期 前学年) ・学期末に「到達度確認テスト」をする	・プリントの活用の仕方を検証し、学級で学期中に実施し、定着度を学期末に調べるようにした。学年差、個人差はあるが、教チェックでも、基礎力はあがってきた。 ・「自学」は随分意識も高まり進んでいる。 ・ノーマディアの提出率が上がった学級もでてきた。	B	・学期末に到達度確認テストをすることを意識し、朝学や補充学習、自学など、繰り返しプリントをするような取組が学校全体で定着してきた。 ・「自学」は、学校全体での取組を進めた結果、定着してきた。 ・ノーマディアの意識も高まってきているが、学年により差がある。	B	・プリントの取組を徹底していく。 ・基礎基本の力・活用力を意識した指導をしていく。 ・話し合い活動をポイントにおいた授業改善を進める。 ・「自学」の質を高め、主体的に学ぶ意欲を高める。 ・メディアコントロールの意識を家庭と連携しながら高めていく。
家庭学習の充実	運動会終了後の1ヶ月(10月中旬)	意識を高める	・勉強タイムのふりかえりカード ・校内で自主学習の紹介をし、「自学」の充実をはかる ・「家庭への提言プリント」配布(10月末)	・方策は実行できた。 ・「自学」は随分意識も高まり進んでいる。 ・ノーマディアの提出率が上がった学級もでてきた。	B	・「自学」は、学校全体での取組を進めた結果、定着してきた。 ・ノーマディアの意識も高まってきているが、学年により差がある。	B	・「自学」の質を高め、主体的に学ぶ意欲を高める。 ・メディアコントロールの意識を家庭と連携しながら高めていく。

※達成度 「S:目標を多きく上回った(100%超)」「A:目標を十分達成できた(85%以上100%未満)」「B:目標を概ね達成できた(70%以上85%未満)」「C:目標をある程度達成できた(50%以上70%未満)」「D:目標をあまり達成できなかった(30%以上50%未満)」「E:目標を達成できなかった(30%未満)」

小中連携の取組	保護者・地域へ理解・協力を求めること
○県・全国学力学習状況調査の分析を基に教科学力の向上を目指した授業改善の取組 ○家庭学習の手引きの共通化 ○「ノーマディアにチャレンジ」週間を設け、家庭での過ごし方を家族で見直す機会を作る。(勝北中ブロックで同期間に取り組む) ○①靴揃え②チャイム着席(教職員も、チャイムに始まり、チャイムに終わらせる)	家庭への「提言プリント」を受けて、生活習慣改善の協力を得る。 (朝ごはん・寝る時刻・ゲームやスマホの時間などのルールづくり・学習用具の準備等)